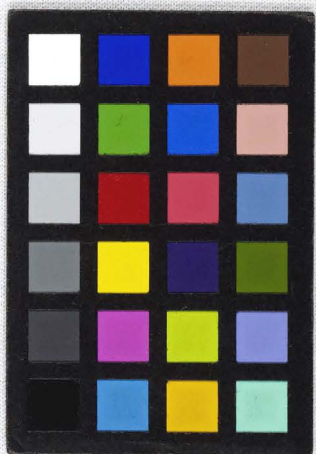
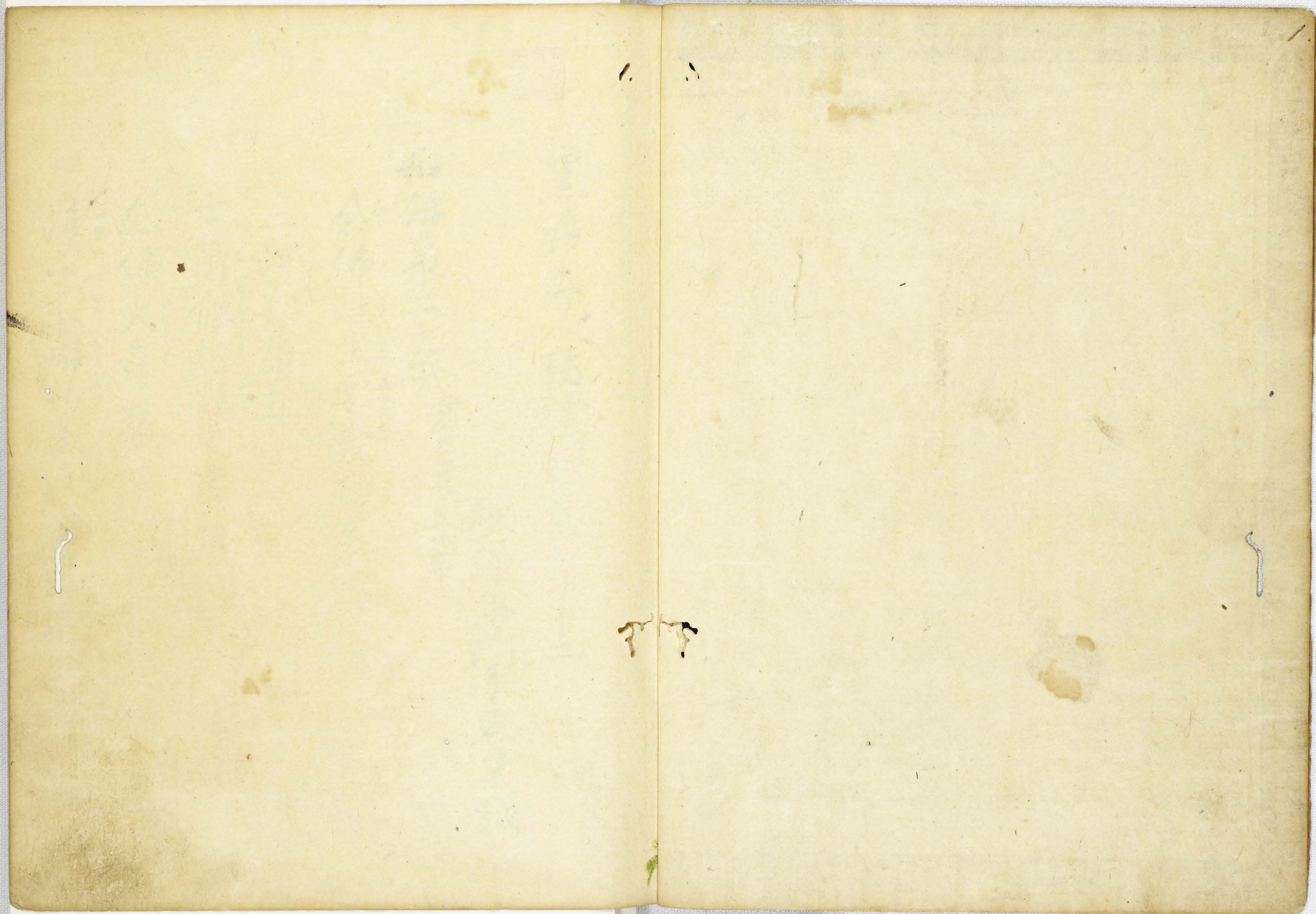


語燈錄

卷二







憲旨上人語燈錄卷第十二

欣淨沙門不惠集錄

當卷有五篇

和語第二之二

念佛往生要義抄第四

三心義第五

七箇條起請文第六

念佛大意第七

淨土系略抄第八



自加れ念佛はまじく此生すまふ次

問ていさくろ他力乃備いじ登えい

をさすら小口乃力善悪をとりて波立

けせんと存ひてせよと他力念佛よふ

だる謀議乃尾しほくは端はなぬか

里とけし端まはゆいにおひわら半丈

一白小望天下とさるるこころしは流と他力也

しほ也又杉のさるる石はさしつしつ

時のれふじつひるさし小さくくつせし

ゆきくあしがなみらさしおどろ祿のち

まのそけいしつしつしつしつしつしつ

しつしつしつしつしつしつしつしつ

他力乃

問ていつく自力とよふ人登えい

願下奥奥とてつるさとりて悦と

断しつるさとりて成佛すて書夜

論^ロ平^{ヘイ}等^{トウ}大^{ダイ}悲^ヒ然^ニ行^キて^シひ^シり
後^{ノチ}の^シを^シ他^タ力^{リキ}に^シ住^ヂて^シ念^{ネン}佛^{ブツ}の^シ
一^{ヒト}念^{ネン}更^スあ^リの^シ一^{ヒト}行^キ路^ロの^シの^シ違^{チガハ}
あ^リる^シを^シ念^{ネン}佛^{ブツ}の^シ下^カの^シ女^メ人^ニ行^キ自^ジ
の^シ入^ニ次^ジ酒^{シウ}因^{イン}五^ゴ辛^{シン}を^シ断^{タテ}て^シ五^カ戒^ゲ十^{ジュウ}戒^ゲ
等^{トウ}く^クに^シ住^ヂて^シ人^ニ事^ジを^シ聖^{セイ}人^ニ自^ジ力^{リキ}
に^シ住^ヂて^シ念^{ネン}佛^{ブツ}の^シ人^ニ事^ジを^シ佛^{ブツ}の^シ違^{チガハ}
あ^リる^シ人^ニ事^ジ千^{セン}人^ニ一^{ヒト}人^ニ万^{マン}人^ニ一^{ヒト}二^ニ人^ニ多^タ人^ニ

や^シ人^ニ事^ジを^シ念^{ネン}佛^{ブツ}の^シ善^{ゼン}導^{ドウ}和^ワ尚^{ショウ}八^{ハチ}千^{セン}中^{チュウ}元^{ゲン}一^{イチ}
と^シお^シの^シを^シ念^{ネン}佛^{ブツ}の^シ善^{ゼン}導^{ドウ}和^ワ尚^{ショウ}八^{ハチ}千^{セン}中^{チュウ}元^{ゲン}一^{イチ}
え^シの^シを^シ念^{ネン}佛^{ブツ}の^シ善^{ゼン}導^{ドウ}和^ワ尚^{ショウ}八^{ハチ}千^{セン}中^{チュウ}元^{ゲン}一^{イチ}
し^シの^シを^シ念^{ネン}佛^{ブツ}の^シ善^{ゼン}導^{ドウ}和^ワ尚^{ショウ}八^{ハチ}千^{セン}中^{チュウ}元^{ゲン}一^{イチ}
を^シ念^{ネン}佛^{ブツ}の^シ善^{ゼン}導^{ドウ}和^ワ尚^{ショウ}八^{ハチ}千^{セン}中^{チュウ}元^{ゲン}一^{イチ}
て^シの^シを^シ念^{ネン}佛^{ブツ}の^シ善^{ゼン}導^{ドウ}和^ワ尚^{ショウ}八^{ハチ}千^{セン}中^{チュウ}元^{ゲン}一^{イチ}
は^シの^シを^シ念^{ネン}佛^{ブツ}の^シ善^{ゼン}導^{ドウ}和^ワ尚^{ショウ}八^{ハチ}千^{セン}中^{チュウ}元^{ゲン}一^{イチ}
ふ^シの^シを^シ念^{ネン}佛^{ブツ}の^シ善^{ゼン}導^{ドウ}和^ワ尚^{ショウ}八^{ハチ}千^{セン}中^{チュウ}元^{ゲン}一^{イチ}

迎^{カサ}りあつて人事^ニさくさくひかまづるべし
女人^ノありて在家^ノの女もあらず
生^{ワクニ}てまじりていふこと

向^カていづく心^ノのまじりての念佛^ノ意^ニ中^ニ
念佛^ノとて勝^テ者^トえ答^テていづく切^ク徳^ト

とくしてあまき差別^ノ
難^シていづく一條^ノに不^レ審^トありそれゆゑ
あまじの念佛^ノ餘^ト念^トもいづく一向^ノ極^ク樂^ト也^ト

此事^ノのまじりては、法^ノの年^ノの業^ト也

ゆゑゆゑに法^ノの地^ノも多^クし清^ク淨^クの念佛^也

心^ノ散^ラ乱^トする時^ニ三^ノ業^ノ不^レ調^トりて宗^ノを修^スす

とまじりて念^ノ珠^トといふことあり

念佛^也といふことあり

答^テていづくさくさくひかまづるべし

のゆゑにさくさくひかまづるべし

さくさくひかまづるべし

いづ南無阿弥陀佛と云ふ十劫の功

り人衆生をばしうをばしうと云ふなりと

りて終ふるがゆりて多少の論を往

生り得命のなりて七年願の文頭終る

るるるるる

問ていづく寂後の念佛し平生の念佛と

をばしうと云ふや答ていづくをばしうと

をばしうと平生の念佛臨終の念佛と云

うもいづく平生の念佛のなりて臨終
の念佛と云ふ臨終の念佛のなりて平生

生の念佛と云ふ也

難くといづく寂後の一念の百年の業は

をばしうと云ふなりと答ていづくをばし

をばしうと云ふなりと難くといづくをばし

をばしうと云ふなりと善業といづく

をばしうと云ふなりと善業といづく

おろもろし

うとく掛とん五逆重罪と名を女人
南提とそそ次行とん六念十念とん
五障三後とんしつて願
とそそのみ行とんけしん也念佛
小次念念今然しつて人々
人々五念五障と消し三念三後滅
して念念終念人未逆とん人々行住

坐臥坐若号坐とんあ坐時處諸縁坐
願願生願たのじ願つ願ち願り願く

南無阿弥陀佛南無阿弥陀佛

三心義 第五

観観无量寿経観若観有観衆生観願観生観彼観國観多観放観三
種種心種即種便種往種生種何種等種為種三種二種者種至種誠種心種三種者
深深心深三深者深迴深向深發深願深心深具深三深心深者深必深生深彼深國
ととりと禮と讃とのと三と心ととと釋としとりとてと具と三

六道輪廻して往生の縁ありと信し二六
累今なりと信し十の願力縁を施縁
出でて此の次往生を乞ふ事こそよく
なりけりしと信し又二あり
一は今川に信と昔川に去る行の事
信と今川に信と昔川に去る出離生
死の事なりと信し又二あり
一は聖道門二は淨土門の聖道門は六

は娑婆世界は煩惱と斷し善根を護す
みあり淨土門は六は娑婆世界といふ
が極樂を稱して善根を修すあり
二ありと信し聖道門を修す淨
土の歸しと信し今ありと信し
論といふて衆愚の凡夫往生の事と信
し衆愚といふて退心と信し衆障の凡夫

淨土に往生すといふ事なる釋尊の誠言
凡ての妄執を捨てて淨土の佛の言
信じて之を淨土と欲求し、諸佛菩薩
の功徳を衆障の凡て淨土にいじりて
の功徳も亦之を信じて之を淨土といふ
菩薩の佛の弟子なりし由なる善徳
の佛説とて之を淨土といふは佛
説たるに於て往生は淨土の功徳なる善

徳ありしと又佛の同躰の大悲の由り
佛の釋迦の説たるを淨土といふ
の阿彌陀佛の一日七日の功徳なる命
て之を淨土といふ事とて之を淨土といふ
恒沙の諸佛釋迦佛の功徳なる證誠
の功徳なる淨土の功徳なる淨土の功徳
なる淨土の功徳なる淨土の功徳なる淨土
の功徳なる淨土の功徳なる淨土の功徳なる淨土
の功徳なる淨土の功徳なる淨土の功徳なる淨土

れゆへに佛菩薩の説がらひも信するは
ふといふや餘説とや人の執するは
あり大小とありとももれ佛果を期す
機土の修行聖道門の入り目了修す
ある正雜不同なりとも不修果を修ふ
往生の行業の淨土門の入り聖道の心は
あり有縁の行淨土門の入り有縁の行
ありとありと難するは修しとありし

と難するはすつくのしく信するのよ就
人立信とありくは行つきて信とあり
とあり往生極樂の行するありとも種
とありとあり正行とあり難行也正行とあり
阿彌陀佛とありて忘るるは行の難行とあり
阿彌陀佛とありてとありとあり行の入り
正行とありとありつきて五ありとあり
讀誦とありとありとありとありとあり
観察とありとありとありとあり

いの中は極樂に依正と觀する也三は礼拜の
と誓ふ阿彌陀佛と礼拜する也四は稱名は由
親縁路の名号と稱する也五は誦嘆供養
と中阿彌陀佛と誦嘆一供養する也五
とてありせむこととて一心にひらる阿彌
ろ者号と念して行住坐卧一時節久近を
念ふ念といふとてさうとて正定業とてつく
ぬりて十の願順するゆへに二は此の五

の中は稱名は礼拜誦誦等とてふ
業とてつく川とて難行といふは五種正
即二業とのくまで已外のりなく誦誦大
乘發菩提心持戒勸進等の一切の行也
正即二行といはる五種の得失ありて親
疎對といはる中行阿彌陀佛とて難
行といはる二は近遠對といはる中行阿彌
陀佛といはる難行は阿彌陀佛とて三は有間

元いち間ま對たいいいゆるる正しやう行ぎやうのの對たいいいゆるる元いち間ま也
雜じ行ぎやうのの對たいいいゆるる間ま斷たりり四しのの廻わい向かう不ふ廻わい
向かう對たいいいゆるる正しやう行ぎやうのの廻わい向かうととりりいいゆるるをを
ののつつるる往わう生じやうのの業ごうととりり雜じ行ぎやうのの廻わい向かうせせるる時ときに
往わう生じやうのの業ごうととりりいいゆるる元いち間ま對たいいいゆるる正しやう行ぎやう
のの純じゆん極ごく樂らくのの業ごう也也雜じ行ぎやうのの對たいいいゆるる十じゆ方ぽうのの淨じやう土ど
乃な至し人にん天てんのの業ごうととりりいいゆるる信しんととりり就じゆ行ぎやう立た信しん
ととりりいいゆるる廻わい向かう發はつ願げん心しんととりりいいゆるる過か去そととりりいい

今いま生じやう身しんのの意い業ごうにに修しゆすすととりりいいゆるる切きりりのの若じやく
根こんととりり真ま實じつのの心しんととりり極ごく樂らくにに廻わい向かうせせるる
ととりり欣きん求きゆうすすととりりいいゆるる廻わい向かう發はつ願げん心しんととりりいい
のの三さん心しんととりり具ぐししのの對たいいいゆるる往わう生じやうととりりいい

七箇條の建請文

第六

ががをを往わう生じやう淨じやう土どのの人にんのの要よう法ぽうととりりいいゆるる三さん心しん
淨じやう土ど系けいのの大だい事じのの三さん心しんのの法ぽうににああるるととりりいいゆるる三さん心しん
にに具ぐせせるるのの日にち夜や十じゆ二に時じととりりいいゆるる大だい事じととりりいい

よりこころもふしはるもはかばか生とえんこと
より後果を補つらん人かふしとて三心の
等とて心えて念佛とて三心とてふふ
至誠心とて深心とて廻向發願心なり
誠心とて大師釋しての終り至とて真
誠とてふ實とてなりは真實心とて至誠心と
善導のわきせりては真實とてふらん
虚假の心なりとて虚假とて貪瞋等

乃煩悩を起して正念とてふと虚假心
と釋とてふとて煩悩なり
事かふかりて貪瞋とて母とて出生なり
貪とてふりて喜足小欲の貪なり不喜足
大欲の貪なりは淨土系に割つるこころ
不喜足大欲の貪煩悩なり行者なり
道理とて心えて念佛とては真實の
念佛なりとて喜足小欲の貪なり

らく願煩悩も敬上意下らんを思ふす
と道理を心えりては願煩悩も思ふ
心也思ふ心よりて思ふ心なるも川
生死といひ浄土証縁ひては生死を事
思ふ心よりて思ふ心なるも川
と願煩悩も思ふ心也思ふ心なるも川
と願煩悩も思ふ心也思ふ心なるも川
假の心なるて真實心なるも思ふ心なるも川

と淨土の菩提心といふ也詮するところ生死
難と云ふも念佛の一行といふは思ふ心
真實心といふ心なる
二、深心といふ心も念佛を信する心なる
く念佛を信する心も念佛の一行といふは思ふ心
心なるも念佛の一行といふは思ふ心
心なるも念佛の一行といふは思ふ心
心なるも念佛の一行といふは思ふ心
心なるも念佛の一行といふは思ふ心

願ねが補ま名な乃の一いっ行ぎやうと本願ほんねんとすと心こころえてと心こころ

が念佛ねんぶつとと深心しんじん具足ぐそくととと

三さん廻まわ向むか教くわう願ねん心しんとと元始げんじととと

作さくのりくりく善ぜん根こんといいとと作さく極樂ごくらく

いいとと又またいいとと退たいとと事こととと念佛ねんぶつとと

廻まわ向むか教くわう願ねん心しんととと恵え心しんのの義ぎなり

ととと至し誠じやう心しん深しん心しん具ぐ足そくとととのの心しん

いいとと念佛ねんぶつ乃の數すう遍へんととと念佛ねんぶつ退たい

轉てんせせのの廻まわ向むか教くわう願ねん心しんけけとととのの也や淨じやう土ど亦また亦また

三さん心しん乃の也やととと心しんをを念佛ねんぶつととと三さん心しんのの

がが念佛ねんぶつとととけけふふのの往わう生じやうのの心しんととと也や

三さん心しん具ぐ足そくととと乃の往わう生じやうのの元げん下げととと也やととと也や

ととと輪りん廻まわ生じやう死じのの心しんととと也やととと也や

願ねん癡ちのの煩ぼん悩なう乃の絆はん小せうととと也や也や貪どん願ねん癡ちととと

ハハ念ねん趣すうハハ中ちゆうととと也やのの心しんととと也や

心しんええととと也やととと也やととと也やととと也や願ねん

此念佛も悲願ひがんとて是人事一定也
一河に流るる水も方流るる人
ことわらぬ流るる水の如くわらぬ
てこそわらぬ念佛はわらぬ中人とて
六方遍むつぱんの人と流るる水の如くわらぬ
少くも流るる水も少くも流るる
水も少くも流るる水も少くも流るる
水も少くも流るる水も少くも流るる
水も少くも流るる水も少くも流るる

まぢいふふふふふふふふふふふふ
のふふふふふふふふふふふふ
りふふふふふふふふふふふふ
女メのふふふふふふふふふふふふ
煩悩ぼんごうをたふす事也天魔てんまはく
ひは外道げだうのふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
すふふふふふふふふふふふふ

現小謹撰^レあ^レる^レ幸^レわ^レぬ^レ申^レり^レ也

と^レく^レも^レ心^レは^レ三^レ心^レは^レ

汰^レて^レり^レま^レる^レ心^レえ^レる^レ令^レの^レ際^レ終^レる^レ

と^レり^レ終^レる^レあ^レら^レい^レふ^レそ^レれ^レと^レ多^レく^レ

と^レ心^レを^レさ^レす^レ

一^レに^レく^レ別^レ時^レの^レ会^レ佛^レと^レ修^レる^レ心^レを^レあ^レげ^レ

と^レり^レそ^レの^レ心^レを^レい^レく^レと^レ自^レら^レに^レ方^レ遍^レと^レ

中^レ心^レ七^レ節^レ遍^レ行^レと^レり^レが^レい^レふ^レと^レあ^レる^レも^レい^レ

と^レれ^レる^レ事^レと^レを^レあ^レは^レら^レる^レ人^レの^レ心^レを^レあ^レげ^レ

目^レと^レり^レれ^レ身^レ目^レが^レ違^レわ^レぬ^レと^レい^レふ^レと^レい^レふ^レ

と^レり^レあ^レげ^レら^レれ^レる^レ心^レを^レあ^レげ^レる^レ心^レの^レ味^レを^レ

と^レり^レあ^レげ^レら^レれ^レる^レ心^レを^レあ^レげ^レる^レ人^レ料^レの^レ味^レを^レ

別^レ時^レの^レ会^レ佛^レと^レす^レと^レい^レふ^レと^レい^レふ^レと^レい^レふ^レと^レい^レふ^レ

心^レを^レあ^レげ^レら^レれ^レる^レ心^レの^レ味^レを^レあ^レげ^レる^レ心^レを^レあ^レげ^レる^レ

と^レり^レあ^レげ^レら^レれ^レる^レ心^レの^レ味^レを^レあ^レげ^レる^レ心^レを^レあ^レげ^レる^レ

心^レ花^レ香^レは^レも^レい^レふ^レと^レい^レふ^レと^レい^レふ^レと^レい^レふ^レ

いふことにてかぎりなくせめていふべき
ふくむる道場よりてあるは三時とい
六時といふ念佛より同行人といふ
人といふより不斷念佛といふ
身といふより善導の言をいふ
月の白よりいふよりあるは公
昔よりいふよりいふよりいふより

いふことにてかぎりなくせめていふべき
ふくむる道場よりてあるは三時とい
六時といふ念佛より同行人といふ
人といふより不斷念佛といふ
身といふより善導の言をいふ
月の白よりいふよりいふよりいふより

いふことにてかぎりなくせめていふべき
ふくむる道場よりてあるは三時とい
六時といふ念佛より同行人といふ
人といふより不斷念佛といふ
身といふより善導の言をいふ
月の白よりいふよりいふよりいふより

聖泉の来迎

釋カウ・川カウ・以カウ・向カウ・專カウ・修カウ・の・念カウ・佛カウ・の・意カウ・也カウ・志カウ
久カウ・然カウ・一カウ・向カウ・に・信カウ・せカウ・しカウ・てカウ・其カウ・のカウ・行カウ・もカウ・人カウ・のカウ・心カウ
とカウ・ちカウ・のカウ・心カウ・をカウ・以カウ・てカウ・行カウ・ふカウ・他カウ・のカウ・行カウ・もカウ・心カウ
とカウ・ちカウ・のカウ・心カウ・をカウ・以カウ・てカウ・行カウ・ふカウ・功カウ・徳カウ・をカウ・修カウ・めカウ・しカウ・てカウ・其カウ・のカウ・心カウ
をカウ・一カウ・にカウ・結カウ・すカウ・くカウ・とカウ・道カウ・をカウ・行カウ・ふカウ・後カウ・もカウ・一カウ・にカウ・結カウ・すカウ
とカウ・れカウ・教カウ・をカウ・修カウ・めカウ・しカウ・てカウ・其カウ・のカウ・心カウ・をカウ・以カウ・てカウ・行カウ・ふカウ・とカウ・其カウ・のカウ・心カウ
をカウ・以カウ・てカウ・行カウ・ふカウ・とカウ・其カウ・のカウ・心カウ・をカウ・以カウ・てカウ・行カウ・ふカウ・とカウ・其カウ・のカウ・心カウ・をカウ・以カウ・てカウ・行カウ・ふカウ
天カウ・台カウ・法カウ・相カウ・のカウ・經カウ・論カウ・もカウ・教カウ・をカウ・修カウ・めカウ・しカウ・てカウ・其カウ・のカウ・心カウ・をカウ・以カウ・てカウ・行カウ・ふカウ
天カウ・台カウ・法カウ・相カウ・のカウ・經カウ・論カウ・もカウ・教カウ・をカウ・修カウ・めカウ・しカウ・てカウ・其カウ・のカウ・心カウ・をカウ・以カウ・てカウ・行カウ・ふカウ

一カウ・川カウ・とカウ・てカウ・あカウ・らカウ・るカウ・とカウ・多カウ・くカウ・もカウ・あカウ・らカウ・るカウ・とカウ・一カウ・川カウ・とカウ・てカウ・あカウ・らカウ・るカウ
佛カウ・道カウ・修カウ・行カウ・いカウ・しカウ・くカウ・才カウ・とカウ・もカウ・もカウ・時カウ・とカウ・もカウ・もカウ
久カウ・のカウ・佛カウ・のカウ・藏カウ・後カウ・第カウ・四カウ・のカウ・五カウ・百カウ・年カウ・にカウ・不カウ・智カウ・恵カウ・とカウ
みカウ・つカウ・きカウ・てカウ・煩カウ・悩カウ・とカウ・断カウ・つカウ・とカウ・事カウ・がカウ・つカウ・くカウ・心カウ・とカウ・もカウ・あカウ・らカウ・るカウ
禅カウ・定カウ・とカウ・えカウ・んカウ・事カウ・をカウ・しカウ・てカウ・いカウ・しカウ・ゆカウ・てカウ・今カウ・のカウ・念カウ・のカウ・心カウ
をカウ・以カウ・てカウ・行カウ・ふカウ・とカウ・其カウ・のカウ・心カウ・をカウ・以カウ・てカウ・行カウ・ふカウ・とカウ・其カウ・のカウ・心カウ・をカウ・以カウ・てカウ・行カウ・ふカウ
第カウ・五カウ・のカウ・五カウ・百カウ・年カウ・開カウ・闡カウ・諍カウ・堅カウ・固カウ・のカウ・時カウ・也カウ・他カウ・のカウ・行カウ・法カウ
第カウ・五カウ・のカウ・五カウ・百カウ・年カウ・開カウ・闡カウ・諍カウ・堅カウ・固カウ・のカウ・時カウ・也カウ・他カウ・のカウ・行カウ・法カウ

さう成就せし人す。一。志うけたる人。念
とて。末法のらざり。利益あり。下。い。や
ん。世。末法。百年。た。り。一。念。と。法。路
と。念。せ。ん。人。と。往。生。と。け。ん。人。と。た。る
ら。ん。と。珍。妙。の。川。ぬ。り。あ。り。と。よ。と。末
法。の。念。の。成。生。と。た。り。と。あ。る。と。た。る。と。た。り
又。釋。尊。在。世。の。時。に。即。ち。成。佛。と。て。い
龍。女。の。り。り。と。あ。り。と。一。と。さ。と。い。又。即。ち。成

佛とて小の次と云ふこと。一。聖道門に
と。こ。ろ。い。り。の。法。い。り。人。善。薩。聲。聞。と
い。ふ。の。權。者。の。り。り。と。い。の。の。成。生。と
等。い。ふ。と。い。り。と。て。經。論。の。學。者。法。記。經。持
者。と。い。り。と。い。や。と。い。り。と。い。り。と。い。り。と。い。り
道。徳。と。い。り。と。い。り。と。い。り。と。い。り。と。い。り。と。い。り
と。い。り。と。い。り。と。い。り。と。い。り。と。い。り。と。い。り。と。い。り
り。と。い。り。と。い。り。と。い。り。と。い。り。と。い。り。と。い。り。と。い。り

してこそよく後世者たるも臨末にあ
 して殊路なくその別たるも密嚴
 花蔵の世者たるも心現する人との約
 して後をわけておけよから五断元明の
 菩薩のゆくは事なり又一向專修の念
 佛のゆくは事なり日誦り三万遍り
 遍六万遍乃至十萬遍すべしと
 してのゆくは事なり
 遍六万遍乃至十萬遍すべしと
 してのゆくは事なり

諸經のゆくは事なり人申すに
 多くて不審なるもわきまなく
 してのゆくは事なり
 末代の衆生を以て行成就
 してのゆくは事なり願力なり
 念佛往生を以てのゆくは事なり
 觀音勢至のゆくは事なり
 教のゆくは事なり

生死の道に減して寂後終入時
もつて法流の来迎にあつても廻向發
願心とて自他の行は真實の中
に廻向發願するも三心一川とけり
と往生をせしむるは他の行と爲
し人ふらして眾にあらはれんと
しうは念佛往生を不定に存して
はるゝいよいよして他事とくもあら

ゆゑにまじりて三心の行なり
至誠心はわづらひんてふまことと
し事とわづらひんてふまことと
や志すは殊路の本願の本意もた
いて信心はけりしとありとて
信が深しとてしとありとて
あかば信力も願を成就するの信
力といふゆゑに一向に往生を決定

ワ朝の末法の衆生の人々をわづらひ難修
せしめんやそとてやくふ殊修業の願
釋迦如来の説道禪善導の釋とて
難修の修して極樂の果は不定に修
す専修の業と行へ往生のそと
決定すつてこのかの道禪善導等釋と
念佛の人々をまづしむるなりとて
法相宗のそとて専修念佛のそと

信向せしむる存すとの意息大師の
西方要決といふ末法万年餘経悉滅旃
陀一教利物偏増と釋し終り又
書いといふ三宣九断之文十地五修之説
生期か促花路氷運不如暫息多聞廣学
専念佛之軍修とてそのそと
又大聖竹林寺の記といふ五臺山竹林寺
の大講堂の中にて普賢文殊東西小對

座してりんくは衆生のたふ不^{ミヤウチ}妙法を^{ミヤウチ}此
 後^{コト}時^{トキ}法照^{ホウショウ}禪師^{ゼンシ}の^ニ由^ユりて^テ文殊^{モンジュ}の^ノ同^{ドウ}
 名^ナを^シて^テ未^ミ来^{ライ}恩^{オン}世^セの^ノ凡^{ボツ}夫^フ道^{ドウ}は^ハ縁^{エン}
 と^シて^テ三^{サン}聖^{セイ}と^シて^テ淨^{ジヨウ}と^シて^テ
 往生^{ウシヤウ}淨^{ジヨウ}土^{ツチ}の^ノ名^ナ号^{ケツ}は^ハす^キ
 一^{イツ}門^{モン}の^ノ釋^{シヤク}迦^カ一^{イツ}代^{ダイ}の^ノ聖^{セイ}教^{ケウ}に^ニ
 傾^{キョウ}證^{テイ}喜^キ提^{テイ}の^ノ補^ボ念^{ネン}の^ノ
 一^{イツ}門^{モン}の^ノ釋^{シヤク}迦^カ一^{イツ}代^{ダイ}の^ノ聖^{セイ}教^{ケウ}に^ニ

あり^キり^キし^キら^キる^キは^ハ縁^{エン}法^{ホフ}縁^{エン}あり^キハ^ハク^ク
 い^ハん^ハや^ヤ未^ミ来^{ライ}恩^{オン}世^セの^ノ凡^{ボツ}夫^フ道^{ドウ}は^ハ縁^{エン}
 く^クの^ノ要^{ヨウ}文^{モン}等^{トウ}智^チ者^{シャ}の^ノ引^{イン}と^シて^テ
 入^ニる^ニは^ハ信^{シン}心^{シン}と^シて^テあ^ハる^ニま^ハん^ハ
 業^{ガク}と^シて^テ申^{マウ}す^ニは^ハ淨^{ジヨウ}土^{ツチ}に^ニ入^ニる^ニ事^{コト}
 後^{コト}悔^{クワイ}あ^ハら^ズす^ニは^ハ縁^{エン}法^{ホフ}縁^{エン}あり^キハ^ハク^ク
 一^{イツ}門^{モン}の^ノ釋^{シヤク}迦^カ一^{イツ}代^{ダイ}の^ノ聖^{セイ}教^{ケウ}に^ニ
 難^{ナン}と^シて^テ申^{マウ}す^ニは^ハ淨^{ジヨウ}土^{ツチ}に^ニ入^ニる^ニ事^{コト}

せも人々をておぼる。二人人
そ三思道のなるりいそまきまき
くのそまき辯難のそまきいた右まき
眾人のりびりて論談のそまき
さる事也又十善のそまき
都率と補のそまき
極樂の五逆のそまき念佛のそまき
そまき十悪のそまき

又慈尊は出世の期そまき五十六億七千
万歳にまきびりてそまき
そまきのそまき
極樂のそまき願のそまき
凡人のそまき佛法のそまき
そまき三生四生に得脱のそまき
そまき願のそまき
大道結縁の信樂慚愧のそまき

事

彼佛因中立弘誓

不簡貪窮將富貴

不簡多聞持淨戒

但使迴心多念佛

こそり又いふ

最後條終り時

念佛

聞名念我惣来逆

不簡下智与高才

不簡破戒眾根深

能令凡藥變成金

經論聖教の者こそ

暗誦

念佛

すて補念

の松願

の松願

願

正覺

正覺

信

又他の法門

此の如くして一向專修の念佛に信じて
他の如くして日暮朝暮行住坐臥に
専修の補念すべしなり專修念佛を
當世に往生せしむるに
難修の念すべしなり
物難其人也
此の如くして一向專修の念佛に信じて
他の如くして日暮朝暮行住坐臥に
専修の補念すべしなり專修念佛を
當世に往生せしむるに
難修の念すべしなり
物難其人也

此の如くして一向專修の念佛に信じて
他の如くして日暮朝暮行住坐臥に
専修の補念すべしなり專修念佛を
當世に往生せしむるに
難修の念すべしなり
物難其人也
此の如くして一向專修の念佛に信じて
他の如くして日暮朝暮行住坐臥に
専修の補念すべしなり專修念佛を
當世に往生せしむるに
難修の念すべしなり
物難其人也

とえそらく見下る人かあやもて聖道
門をあらう切りてはゆくと存するや
とが念佛のあひふ程よくいふとて
人事の聖道門とす 念佛の修行
あひふとては條なくは聖道門と
うかすそのゆりらるる念佛の
とて又他の心なく後世に思ふ人とも
ありては備能くわいては時ありは

もえそらく難行も候てはたか
あひては人衆のゆりらるるあひ
はるるに法路ありては又三途の
舊里のうけて生死の輪轉して多
劫とゆふなりは思ふに人々の身
ありては中も也は諸宗のいふは

浄土宗略抄 第八

やましくして空令りしむらさき

なほとけりしふりしは也

ほかに峰古門といふは安婆世果と云

すくもそそく松葉といふもやれぬ

じまろと申は阿弥陀佛ありて人の

善悪をえりて次ありしはありしは

多の月ほらむる也二あり道線ハ峰古

一門のありて通入すといふらりしは

ありしはよみし生れとふふ人といふ

人の證しとて聖道とすといふは

おぼれ補子といふは聖道峰古の難行

易行道といふはたは難行といふ

よし難行道といふはよみしを

くろくといふは易行道ハ海路といふ

ゆくりといふはとよりありて

えん人のかたれらるゝといふは

じりたむかひしりしやいふ事しりし
 終ひては願ひにあらむなりしは
 其小引の十一なりて十初地は終りて
 是善導の釋の公の如く守現世中
 志願て成佛し終りて後生志願
 本誓重願しりしは衆生補念
 是ら此往生も本願得しは終りて
 是ら此願なりしは本願と信し念

中人人の往生うたふ事ありて
 是ら此願思ひては是ら此願
 願ひにあらむなりしは衆生補念
 念佛願中志願は是ら此願なり
 是ら此願なりしは衆生補念
 是ら此願なりしは衆生補念
 是ら此願なりしは衆生補念
 是ら此願なりしは衆生補念

とんあふきて名号はなるは清土門
の初者なるも也るは経道清土門
也りてなり

清土門のりりる経をくはと行り
つきて中さ心と行り相應とて也
女心速行なるくも女心なるも
ありと女心なるの觀元量壽経に記す
いふと衆生ありて女のくははるる

衆生は三種の心然なりて中なる
生れ何事か三とす
至誠心なる深心なる廻向教願也
と具するはなるは女心なる也
は善守祐南の三の経釋にては
は女心至誠心といふ至心は眞也誠とい
實也一切衆生の身の意業は修すは
解行なりは眞實心なるは女心なるは

取行りてけしめて念佛中なりき
人を見ん為にありき念佛中
す人として居るなり心も也
なり人事はもつれなり
事少くはゆき論するこころは
後見やふりしけり心もゆき
皆ひてゑのには事ばなりて外相を
誅し嫌ん少くなりし也也誅し嫌んなりしとも
き様ん きん

うらまへ事なれどもやその心は後事
をよき事なりとて又至誠心なれば
心よりなりてはなりぬるのゆき
ては心はもつれなりとてなり
は至誠心とありき
二に深心といふなり其の深心は
深心といふなり信する心なり二
なりては深心といふなり信する心なり二
なりては深心といふなり信する心なり二

奥庭より衆生生死の凡そ也吾指薄少
と廣知りて一かゝりて三番に流轉
そと玉雄の縁なりとて信す一と一
とくかの信縁佛堂十八願はる衆生
と備受し終りて名号はる
事下十巻にいふ中てかゝりて信力
し新てとて現そ此世と得し信て
乃至一信とてとて中て中深心と

とて又深心といふは深心とて信縁を
れ教し順て修りてあくること
とていふこと一切の別解別行異學異見
異執のたゞ退去頓動せしむる所
釋の心なりといふは信縁の信
とていふこと信縁の信縁の信
心はたゞ心先の信縁ありて中
信縁と信縁ありて中深心の事

此の如くありしと一合しやいふも
亦法隆の本願の心名号は是人の心
り六百年ありと二十二年あり
八四五年ありと一三二年あり
ハ七日十日十砂と信心はなりて
南無阿彌陀佛と申すは次に之は
ありてありては上の念佛中人
と思ひしなりと人の心は是なり

と申す申す七日十日十砂一砂
よそは法隆の本願なりと申す
と一と信しては是なり本願なり
心しては一合なりと申すは往生也
と思ひて遷轉するは是なりと申す
申すは又由來なり往生なりと申す
ありて法隆の本願なりと申すは念佛
上人法隆の心なりと申すは是なり

心とすうて中すまひつ川に佛の年数
縁起の時念佛人多く人々所のいじに
心とすうて縁起の念佛して往生は
中すまひつは生起を縁とすす
心とすうて川に流るる人々
死す人とり時を久く善知識の
心とすうて念佛して往生する観
縁起の心とすうて念佛して往生

人の縁起の沙汰はあまのいふまじき
心とすうて佛を来迎一定の縁起の
心念又一定とすうて縁起の心とすうて
心念縁起の心念縁起の心念
又別解脱行の人々やうに縁起の心
心念縁起の心念縁起の心念
心念縁起の心念縁起の心念
心念縁起の心念縁起の心念

心願してゆきしを以て佛の如く
 十方世界にわたりて光輝
 照らす所の煩悩衆生を凡そ
 佛の一定往生すべしと申す事
 信す
 是の如くして佛の如くして
 十方世界にわたりて佛の如く
 心願してゆきしを以て佛の如く
 照らす所の煩悩衆生を凡そ
 佛の一定往生すべしと申す事
 信す

十方衆生の如くして佛の如く
 照らす所の煩悩衆生を凡そ
 佛の一定往生すべしと申す事
 信す
 是の如くして佛の如くして
 十方世界にわたりて佛の如く
 心願してゆきしを以て佛の如く
 照らす所の煩悩衆生を凡そ
 佛の一定往生すべしと申す事
 信す

一候すうさうろ世出世の菩提の他の身
口意業一候すうさうろ世出世の菩提を
随在す一自他可修の菩提なりて
こくく真寶深心の中一廻向すべし
少じり人念縁ふせりしゆ廻向散
經心さうさう也又廻向散一じり
只はうれん決意一真實心の中
廻向すじり事縁念思ひなりし

くもせふあはくしん剛金剛なり
ろりて一切の異見異學別解別行の
人なり動乱破壊せしむるなり
釋心なり身小つて前せり
まじりし人功德深し
一廻向す往生の補ふ也けり身功德
なり一切の聖の功德あり
又の清らなり人功德深し聖の佛菩薩

此川より流る人功德以て随喜す此等功德
生ずる所は極樂に廻向して涅槃と
稱す也詮すところ涅槃は縁起の
無事なる流る事なきは乃ち也
人其方少くも此果報の所は又別
く後世の事なり此と極樂なるの縁起
はも其人を縁起といふ人中の上り
其人有縁起の如くも此は縁起の
廻向

ほ

十の事なるは是なり一は此より縁起の
さるは其人を縁起といふ土は事なるは
縁起の廻向なる人功德は是なり
返りて後世の事なり極樂に廻向して往
生世人の縁起の事なり一切の功德は
小廻向せしむる事なり又念佛の
功德は是なり此は又廻向せしむる
は縁起の事なり此は又一切の功德は

よく見たり

次小遊行（おんぎ）といふ善導（ぜんどう）のいふよき生

の行ありといふも（おんぎ）行はるゝといふて（おんぎ）

正行（せいぎょう）二の難行也（なんぎょう）正行（せいぎょう）の行はるゝ

の行はるゝ行はるゝ（おんぎ）讀誦（どくじゆ）正行（せいぎょう）觀案（くわんあん）正行（せいぎょう）礼拝（らいはい）

正行（せいぎょう）禱名（たうな）正行（せいぎょう）讀誦（どくじゆ）供養（くやう）正行（せいぎょう）礼拝（らいはい）五

種（しゆ）礼（らい）正行（せいぎょう）の行はるゝ（おんぎ）讀誦（どくじゆ）也（おんぎ）供養（くやう）の行はるゝ（おんぎ）

の時に六種の正行（せいぎょう）の行はるゝ也（おんぎ）正行（せいぎょう）の行はるゝ

正行（せいぎょう）の行はるゝ二の心（おんぎ）も正行（せいぎょう）の行はるゝ

行住坐臥（ぎやうじゆうざが）の行はるゝ（おんぎ）

正立（せいりつ）の業（ごう）の行はるゝ

正立（せいりつ）の業（ごう）の行はるゝ（おんぎ）

念佛（ねんぶつ）の業（ごう）の行はるゝ（おんぎ）

礼誦（らいじゆ）の業（ごう）の行はるゝ（おんぎ）

佛（ぶつ）の業（ごう）の行はるゝ（おんぎ）

佛（ぶつ）の業（ごう）の行はるゝ（おんぎ）三部（さんぶ）

号をまゝなりと善守はて失路を自力
こいけりけりけりけりけり 往生と
しる他力こいけり佛ありけりけり
てまゝなりと申す正新法行す
専修の行者とて難行とす
修の行者も正新法行す
久回親近とて憶念の如く
断すとの心は断す廻向心

何れ申す下とて難行の行
こいけり後樂とて正新法行す
之れ百人百人とて百人百人
くして正念とて申す本教と
相應すゆへに釋迦の教と
也難修の百人百人とて
四五人とて少くも百人

此の如く心と身とをわけておぼしめす
返りては又心と身とをわけておぼしめす
事也乃ち心と身とをわけておぼしめす
中より事成るべし心と身とをわけておぼしめす
久しき心と身とをわけておぼしめす
してあるをわけておぼしめす心と身とをわけておぼしめす
事成る人共由らく心と身とをわけておぼしめす
と云はれり心と身とをわけておぼしめす

念佛の如くして信じて往生して
之返りては又心と身とをわけておぼしめす
心と身とをわけておぼしめす往生の如くして
念佛の如くして信じて往生して
切に利益ありては又心と身とをわけておぼしめす
心と身とをわけておぼしめす八十億劫
重累の除滅す又十往生経に
一衆生如くして心と身とをわけておぼしめす

わくわく佛子等々くわんをけゆきん
知りてその文の心は殊絶の年終に
信じて念佛して往生は殊に人々殊に
佛にありて久しきことして昔の諸佛善
薩觀音勢至元敷の菩薩に人々殊に
繞して行住坐卧にふしむるに
けのころ小なりん横世に悪鬼
悪神のたはりしむるを以て

せよとてさゆりわづらひく
あて命終りの時の極楽世界に
念佛して往生は殊に人々殊に
けに悪魔とてさゆりしむるを以て
ふしむるに殊に人々殊に
けに悪魔とてさゆりしむるを以て
けに悪魔とてさゆりしむるを以て
けに悪魔とてさゆりしむるを以て
けに悪魔とてさゆりしむるを以て
けに悪魔とてさゆりしむるを以て

その志しかなればこの諸佛諸神圍繞
して留り給ひ人々を交り此の佛神々
智て行やうし給ふをすまわん人々宿
業をとりおきてうきうき人々をひかひ
かりんくあはれけりいれりて
此の心ゆへに事也なりてなりて
之を心のりりし事わが心か二人
りやあしめり人々いんや又佛の

75

此の心合佛の信すといふ轉重
受三つ心の宿業をとりおきてなり
此の心ゆへにけり給ひ人々を
此の心給ひ人々をいんや宿
業をとりおきてなりてなりて
此の心合佛の信すといふ轉重
此の心ゆへにけり給ひ人々を
此の心給ひ人々をいんや宿
業をとりおきてなりてなりて
此の心合佛の信すといふ轉重

以^レ中^レ事^レ也^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ
て^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ
心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ
て^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ
心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ
心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ心^レ行^レ也^レ

本^レに^レい^レは^レく^レ出^レの^レ書^レは^レ三^レ位^レの^レ禪^レ
法^レの^レ請^レ小^レの^レ進^レ也^レの^レ書^レ也^レ

黑谷上人語燈録卷第十二

28

黒
字
上
入
海
大
海
島

15

7

7

7

7

